

# 平成27年度栃木県養護教育研修会が開催されました。(参加者475名)

日時 平成27年6月23日(火)  
場所 栃木県総合文化センター大ホール

## 1 開会

2 会長あいさつ (栃木県養護教育研究会 会長 大豆生田 聡)

3 来賓あいさつ (栃木県教育委員会事務局 健康福利課長 伊藤 満 様)

## 4 講話「学校保健の現況について」

- 講師 栃木県教育委員会事務局健康福利課 保健給食担当 指導主事 大森 和枝 様
- ・児童生徒の健康診断について 色覚検査の周知、法改正については秋頃に資料が届く。
  - ・感染症関連について 新型インフルエンザ対応マニュアル変更点等県のホームページにある。
  - ・DOTSについて 養護教諭が服薬の確認。飲ませるのではなく、飲んだかどうかの確認。
  - ・その他感染症関連 デング熱、アレルギー管理指導表と対応の資料の活用。
  - ・その他 脊髄液減少症の職員、保護者への周知。子宮頸がんワクチン副反応対応病院。熱中症予防。

## 5 研究発表

- ①「小・中一貫教育を目指した健康教育」 発表者 那須塩原市立槻沢小学校 鈴木 俊恵先生  
那須塩原市立豊浦小学校 相馬 道代先生
- ②「健康教育の推進～養護教諭の特性を生かした授業への関わり方と執務について」  
発表者 宇都宮市立上戸祭小学校 岡田 香 先生  
宇都宮大学教育学部附属小学校 米山久美子先生

## 6 総会

総会では、新旧役員との交代がありました。8年間、副会長として会をまとめてくださった齋藤先生を始め退任される先生からご挨拶がありました。



## 7 講演 I 「38年間を振り返って」

講師 前真岡市立亀山小学校教頭 青山 直己先生

- 養護教諭としての24年間
  - ・初めて保健室に来た子には優しく対応してあげる。
  - ・『養護教諭がなぜ、保健室にいるのか』が養護教諭の仕事の原点。
- 指導主事として7年間
- 教頭として7年間
  - ・学校全体を見る。教育課程の中での「保健」の位置を知る。
  - ・いつもの子供の姿を知る。
- その他
  - ・何事も経験をすることが大事。
  - ・協力してもらえそうな人になる。
  - ・時間を忘れる夢中になれるものを見つける。



## 8 講演 II 「こころの居場所(スペース)としての養護教諭

講師 明治大学文学部教授 諸富祥彦先生

- 4人一組になり、手をつなぎ手を上げて下ろしてから始まりました。クリエイティブなダンスと自己紹介、今はまっているもので盛り上がり、リラックスモードの中リレーションのお話がありました。
- 人間関係をエンジョイできることが一番大事！  
しらふの時も、軽く一杯入ったほろ酔い気分のゆるさがいい。
  - 養護教諭は人間関係のプロであること！  
相手を選ばずに全ての教員とマンツーマンでコンタクトを作る。
  - 助けを求められるようになる＝援助希求  
「相談したいな」と思われる保健室、養護教諭。
  - スペース、居場所  
→居心地いいなあ。ほっとできる雰囲気  
上級の養護教諭：忙しいけど忙しさを出さない。  
相談できる雰囲気。  
中級の養護教諭：忙しいときは「あー忙しい」暇なときは「ひま」  
下級の養護教諭：いつもバタバタしている
  - ほっとできる声かけ  
開かれた質問と閉ざされた質問の使い分け。
  - 先生自身がイライラをためない 例) 一人カラオケ アロマ 笑顔



## 9 閉会